



特集

多彩なプログラムで「気づきの力」を育み 利用者様と仲間のために行動できる人財へ



地域にえがおを

地域の多世代が交流する「よっしー食堂」を開催



4月26日(日)、利倉清豊苑のデイサービスセンターにて、子ども&高齢者食堂「よっしー食堂」を開催しました。2025年1月に締結した豊中市との包括連携協定に基づく取り組みの一環で、多世代交流を通じて地域のあたたかな絆づくりを目指しています。

当日は、長内繁樹豊中市長にもご参加いただき、当法人の小池理事長も同席のもと、子どもから高齢者まで総勢22名の方々に職員の手作りカレーライスを提供しました。また食事の後は、機能訓練に使用しているトレーニングマシンや認知機能チェックテストなど、施設のツールをゲーム感覚でお楽しみいただきました。最初は緊張した面持ちだった皆さんも、時間が経つにつれて笑顔が増え、最後には「次回もぜひ参加したい」とのうれしい声も寄せられました。今後も毎月最終日曜日に開催予定です。ウエルグループは今後も、施設の機能を活かしながら、地域に根ざした交流の場づくりに貢献してまいります。



事業所
PICK
UP

複合型介護老人福祉施設 宝塚清光苑

■兵庫県宝塚市仁川団地4-15 ■0798-51-5510 ■対応サービス:特別養護老人ホーム、グループホーム、デイサービス、小規模多機能型居宅介護、定期巡回・随時対応型訪問介護・看護



〈宝塚清光苑 新施設長のご挨拶〉

利用者様と職員の幸せを追求し 「ここを選んでよかった」と思われる施設へ

多様な現場経験を施設運営の力に

2026年4月1日に宝塚清光苑の施設長に就任しました中丸です。2011年にウエルグループに入職して以来、約15年にわたり、小規模多機能型居宅介護や特別養護老人ホーム、定期巡回・随時対応型訪問介護など、さまざまな形で介護に携わってまいりました。サービスごとに利用者様の介護度も支援のあり方も異なる中で、臨機応変な対応力と現場への深い理解を養うことができたと感じています。今はこの経験を、通所から訪問、入所まで幅広いサービスを提供する宝塚清光苑で活かし、施設長として現場に即した運営を心がけています。全ての責任を負う立場にあるという自覚を持ち、各サービスの管理者やフロアリーダーなど現場の担当者と目線を合わせ、利用者様にとっても職員にとってもベストな判断ができるよう努めています。

利用者様にも地域にも選ばれる施設へ

宝塚清光苑の特徴は、デイサービスから定期巡回・随時対応型訪問介護看護、小規模多機能型居宅介護、特別養護老人ホームへと、利用者様やご家族のニーズに応じて長くご利用いただける点です。「最期まで自宅で生活したい」という方にも、「入所後も住み慣れた我が家のように過ごしたい」という方にも安心してご利用いただき、利用者様に「ここを選んでよかった」と思ってい



ただける施設を目指します。また、地域の方々にも親しみを持っていただき、いざというときには頼っていただける存在でありたいと思っています。今後は地域活

動への参加を通じて関わりを深め、地域に欠かせない施設へと成長させてまいります。

職員の育成にも注力し全員でスキルアップ

利用者様だけでなく、職員にとっても「ここを選んでよかった」と思える環境づくりを大切にしています。その実現のために、法人理念の一部にある「全従業員の物心両面の幸福」を追求し、待遇面での充実はもちろん、研修や法人内イベントなどを通じてやりがいを高める取り組みを続けています。今後特に注力したいのが、次世代リーダーの育成です。複合型介護施設である宝塚清光苑のメリットを活かし、さまざまな介護の現場を経験してもらうことで、一つの型にとらわれずその時々状況に応じて柔軟に対応する力を養い、それぞれが目指す道でスキルを高めてほしいと願っています。

私自身も、現場での小さな気づきを気軽に相談してもらえる、職員と距離感の近い施設長を目指します。現場にも毎日足を運び、職員とのコミュニケーションを深めることで実情を理解するように努めています。一人ひとりの利用者様のために職員全員が同じ方向を向ける風土を作り、職員が安心して長く働ける場所、ひいては利用者様に安心して長く利用いただける宝塚清光苑を目指してまいります。

宝塚清光苑 施設長 中丸龍次



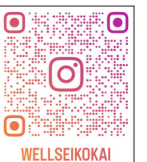
入所系・通所系サービスのご相談は、下記の事業所へ直接ご連絡ください。QRコードから、それぞれの連絡先をご覧ください。

ウエルグループ | 入所系・通所系サービスのご相談は、下記の事業所へ直接ご連絡ください。QRコードから、それぞれの連絡先をご覧ください。

- 豊中市
- ①清光苑 [特]
- ②利倉清豊苑 [地/テ/グ/小/定]
- ③美豊苑 [特/ケ]
- ④刀根山美豊苑 [地/テ]
- ⑤輝豊苑 [テ/グ]
- ⑥ウエルケアプランセンター

- ⑦ウエリスト [小/テ]
- ⑧社会福祉法人香聖会 宙(すはる)豊中 [地/グ/小]
- ⑨庵とよなか庄本 [有]
- ⑩エターナル緑地 [有]

- 宝塚市
- ⑪宝塚清光苑 [特/テ/グ/小/ケ/定]
- 芦屋市
- ⑫陽光苑 [地/テ/グ]
- 西宮市
- ⑬バセム西宮 [有]
- ⑭ケアプランセンター西宮清光苑



[特]特別養護老人ホーム [地]地域密着型特別養護老人ホーム [テ]デイサービス [グ]グループホーム [小]小規模多機能型居宅介護施設 [ケ]ケアプランセンター [有]有料老人ホーム [定]定期巡回サービス

ウエルの
今を
深掘り!



多彩なプログラムで「気づきの力」を育み

利用者様と仲間のために 行動できる人財へ

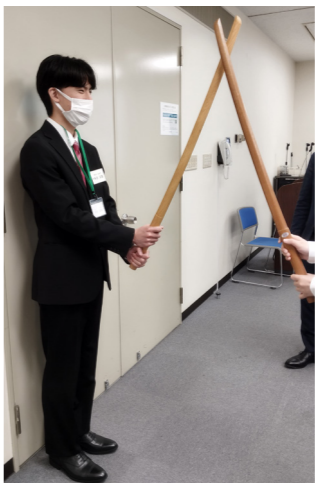
2026年4月、ウエルグループに4名の新入社員が入社し、約1ヶ月にわたって研修を実施しました。この研修は、介護の現場で求められる知識や技術を学ぶ場であると同時に、社会人として、そして人として成長するための場でもあります。育成において大切にしている考え方を紹介します。



1ヶ月間の研修の軸

POINT 01
介護職としての
自覚を胸に

研修の序盤では、社会人としての心構えを身につけます。講義でも社会人マナーや接遇について学びますが、「剣」を構えて相手と対峙する経験をしてもらうのがウエルグループならではの。介護職は利用者様の命を預かる仕事であり、気の緩みや妥協が取り返しのつかない事態につながることもあります。まさに「真剣」を構えるような気持ちで、誠実に相手に向き合う大切さを肌で感じ取ります。介護職としての自覚が、ここから芽生えていきます。



人財育成の根幹

育てたいのは、「人」そのもの

介護職として働く上で、知識や技術の習得は不可欠です。しかし、ウエルグループが研修で何より大切にしているのは「人を育てる」ことです。特に、他者に関心を持ち目を向けられる「気づきの力」を育てることを大切にしています。

観察力が欠かせません。また、共に働く仲間の状況や気持ちにも気配りをし、相手を考えて行動できる人であってほしいと考えています。そのため、一律のカリキュラムを消化するだけではなく、約1ヶ月をかけて一人ひとりと向き合い、得意分野を見つけ、その力を伸ばすことを大切にしています。全員が同じゴールを目指すのではなく、それぞれが自分らしい介護職への一歩を踏み出せるように伴走しています。

POINT 02
自分で考える
力を育む

研修中は「考えを言語化し、自分の言葉で話

ませて周囲のさまざまなサインに向き合う時間です。こうして感覚を磨くことが、現場に出た際に、利用者様の小さな表情の変化一つ、呼吸の変化一つにも気づく力になります。「気づきの力」を育てる、研修の核となる時間です。



POINT 04
チームワークを
築く

4名の新入社員の中には、高校を卒業したばかりの人もいれば、大学や専門学校を卒業した人もいます。また、介護福祉士を取得済みの人もいれば、全くの別分野から入った人もいて、介護への理解度もさまざま。しかし、全員が共に介護の道を歩む仲間でありライバルです。グループワークや宿泊研修での食事

研修を終えると、新入社員はそれぞれ別の施設に配属されますが、すぐに独り立ちするわけではありません。先輩からの指導はもちろんです。研修講師も定期的に施設を巡回し、奮闘する姿や表情から変化を読み取り、時に相談役としてフォローに入ります。たとえば、昨年の新入社員の一人は、入社から一年を経て少し疲れている様子が見て取れたため、能勢での宿泊研修に再び参加してもらいました。気分転換になっただけでなく、後輩たちに指示を出す経験を通じて、教える側の難しさや先輩の気持ちを理解できたようです。新たな目標を胸に、「もう一度頑張りたい」と前を向いて職場に戻っていきました。一人ひとりの成長に、ウエルグループはこれからも伴走し続けます。



また研修の前後には、短期目標と3年後、5年後、10年後、定年後の目標を自ら考え、設定します。研修前は「現場に慣れる」など漠然としていた目標も、研修後には「この資格を取得するためにこの勉強をする」と具体的に変化。将来を見据え、考えを言語化することで確かな行動へとつなげていきます。

POINT 03
自然の中で
観察眼を研ぎ澄ませます

研修の最終週には、自然豊かな能勢町で1泊2日の宿泊研修を実施します。このプログラムの最大の目的は、周りを観察する目と耳を鍛えること。そのために、森林を散歩しながら生き物を探し、写真に撮るフィールドワークも行います。鳥のさえずりや虫の羽音にも耳をすませ、視覚だけに頼らず五感を研ぎ澄



講師陣が目指す人財育成

■ 目指す介護を、自らの手で

研修初日と最終日には、皆さんの表情が別人のように明るく変わっていました。講義中にも「これが社会人かと実感した」という感想が聞かれ、自分の中で何かを感じ取り、仕事への自覚が芽生えた様子でした。現場に出てからも一日一日小さな目標を積み重ね、10年後の大きな目標の達成につなげてほしいと思います。自身が目指す介護の姿を見つけ、根拠を持って実践することで、きっとすてきな介護職員になれると確信しています。



介護福祉士 高見明子

■ 相手への関心から全てが始まる

利用者様と一緒に働く仲間や先輩に対して関心を持ってほしいと思います。そうすることで、たとえ利用者様が言葉を発することができなくても、喜んでいただくためのアイデアが自然と湧いてきます。また、周囲が忙しそうなのも積極的にフォローする行動ができるはず。介護は、流れ作業のようにこなすだけでも一日が過ぎてしまう仕事です。だからこそ、相手を想う気持ちで接してほしい。「あなたが来てくれてよかった」と思ってもらえる人財に育ってくださることを願っています。



介護福祉士 久田めぐみ

■ 目と耳で変化を捉え、共に働ける人財へ

私が望むのは、「共に働ける人財」です。グループワークで周囲を観察する力を養っているのもそのためです。介護職は、周囲への観察力なくしては務まりません。それも、目で追うだけでは真実を見逃してしまいます。やはり大切なのは耳の力。感覚を研ぎ澄ませ、呼吸音まで聞き取って利用者様の変化を捉え、目で確認して行動する。この力が、利用者様への気づきだけでなく仲間への気づきにもつながり、チームで支え合う「共に働ける人財」へと育っていき考えています。



統括責任者 高橋秀政